

事前了解権を有する新安全協定の締結を！

柏崎刈羽原子力発電所30km圏内議員研究会が中川市長に要請

柏崎刈羽原子力発電所30km圏内（UP Z）議員研究会は17日、中川幹太上越市長にたいして、「柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関して事前了解権を有した新安全協定を締結するよう」要請しました。これにはUP Z研究会の関三郎会長（見附市議）など7人が参加しました。

要請にあたっては、関三郎会長が「柏崎刈羽原発は7基の原子炉を擁する世界最大級の原発であり、福島原発事故を起こした東京電力が運用する原発であることから、再稼働にあたっては他の原発以上に慎重な判断が求められる。30km圏に入った自治体は、住民の安全・安心を確保するため、再稼働に対する住民の意思を確実に反映させる必要がある」などとした申し入れ文を読み上げ、牧田正樹副会長が新安全協定案の内容を説明しました。また、同会が昨年行った住民アン

ケートで81.4%もの人たちが「原発の再稼働にあたって、原発から30キロ圏内にある自治体の了解が必要」としたことなどを関貴志事務局長が説明しました。

これにたいして中川幹太市長は、原発から30km圏内自治体には事前了解権は必要であるとしたものの、そのために関係自治体に働きかけることなどの行動はしないとのべました。県民世論は圧倒的に「30km圏内の自治体も事前了解権は必要」としているなかであって、市長自身も必要といいながら、その実現のために努力することを表明できないというのはいったいどうい



ことでしょうか。私からは、「原発をめぐって、市民の不安はこれまでよりも高まっている。意識的な努力をしてほしい」と要請しました。

UP Z研究会は今後、柏崎刈羽原子力発電所から30km圏内にある長岡市など6市町の首長にも同じ要請をすることとしています。



市議会総務常任委員会と柿崎区地域協議会の懇談会が16日、柿崎コミュニティプラザでありました。地域協議会のあり方などで委員のみなさんの声をお聴きするのが目的です。私は担当ではありませんでしたが、今後の審査の参考としたいため、傍聴しました。

総務委員会と柿崎区地域協議会が懇談

市議会総務常任委員会と柿崎区地域協議会の懇談会が16日、柿崎コミュニティプラザでありました。地域協議会のあり方などで委員のみなさんの声をお聴きするのが目的です。私は担当ではありませんでしたが、今後の審査の参考としたいため、傍聴しました。



【ミョウガ】ミョウガ科の多年草。食用としておなじみのものです。若芽の茎とともにこの花穂が食べられています。花期は8月～10月です。花の色は白色とされていますが、私が目にするものは黄色っぽいですね。花言葉は「忍耐」。良く、「ミョウガに赤い花が咲いた」と言われますが、これは実です。写真は8月17日、撮影。

会では、「行政からは、あなたのまちはあなたたちでやってくださいと言われるが、何のための合併だったのか」「地域の課題については、対策が早い方がいいと思う」などの声が出ていました。

会では出された意見は後日、総務常任委員会に報告されます。予定の時間をかなりオーバーしていたので発言をひかえましたが、総務常任委員会が地域活動支援事業の廃止を提言したのは、自主的審議の時間が少なくなるなどの声が続くもの地域協議会から出されていて、それに応えたいです。そして事業名まで踏み込んではいませんが、地域計画作成とその実現に努めるべきだとの提言も行っていきます。この日は率直な声を聞くことができて良かったです。

はしづめ法一の活動レポート

No.2073 2022.8.21

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七二〇回 義母のVサイン

義母は今年も笑顔で迎えてくれました。ただし、自分の部屋ではなく、今回は仏壇の脇の写真の中からでした。

今年のお盆は義母が亡くなって最初に迎えた新盆です。お寺さんがお参りに来てくださるといので、一五日、妻と共に柏崎市にある妻の実家に行ってきました。

この日は雨が降ったり止んだりの天気、一日中、蒸し暑い日となりました。

家の玄関に至る道は市道から一五メートルほどの距離です。ずっと坂道で、道の中ほどのところの左右に大きな百日紅（さるすべり）の木があります。雨にぬれたのでしょね、左側の白い花も右側の赤い花もキラキラと輝いて見えました。

家に入ったのは午前10時を少しまわった頃です。まずはお参りをと仏壇に向かいました。仏壇の一步手前で、すぐ左側に義母の遺影と共にひと回り小さな写真があることに気づきました。これがとても素敵でした。笑顔いっぱい、しかもVサインをしています。私の顔を見上げて、「おっ、橋爪さんも来てくれたね」そんな言葉が聞こえてきそうな写真でした。

写真をよく見ると、介護施設のスタッフの方から撮ってもらったものなのでしょう、立派な木製のイスに腰掛けて、足元には毛布をかけてもらっています。撮影の日付は2020年4月5日となっています。付は、まだ寒かったのでしょうか。

お寺さんを待つ間、私は庭が見渡せる廊下のイスに座ってゆくりさせてもらいました。庭には百日紅の木だけでなく、桜や紅葉の木などが植えられています。庭のほぼ真ん中にある桜の木の上部が枯れ始めている様子が見えました。

義兄に、「桜の木、上の方、枯れちゃったね」と言うと、「たぶん栄養不足になっているんじゃないかな。足も踏まれちゃっているしね」という言葉が返ってきました。

た。「足が踏まれている」というのは、木のそばに大きな石が置いてあるということ。これは気づいていませんでした。

桜の木は義兄の長女のNちゃんが誕生したことを記念して植えたものです。だから、樹齢は少なくとも四七年になっています。義兄によると、苗木は三メートルの長さになっていたといいますが、実際の樹齢はそれよりも二、三年長いはず。

妻はというと、座敷に置いてある家系図に見入っていました。「父ちゃんの母親は、大正十四年五月十一日、三六歳で亡くなったんだね。父ちゃんがまだ二歳だったんだ」。前にも聞いたことがあるような気がするのですが、この言葉が心に響き、私も家系図を改めて見てみました。義母の母親だけでなく、何人もの人が三十年代、四十年代で亡くなっていることを知りました。

それだけではありません。妻が「火事にあっているんだ」と言ったので、家系図のなかの一角に書いてある重大な事件にも注目しました。「明治三十一年五月十七日、放火で当主家とも三戸が全焼。家屋の再建と、後に長男嫁子娘孫に先立たれ、妻と共に心労されたことと思う」。この記述は義父が書いたと思われるが、こうしたこと書かれていることは初めて知りました。

新盆というのは、この一年の間に亡くなった人のことを思い、さらにそれよりも前に亡くなった人たちのことにも思いを寄せることになるんですね。

再び外を見ると、いつの間にか日が照っていて、アブラゼミとツクツクボウシが賑やかに鳴いています。

家系図を見たことで、義母が生前、「父ちゃんがまだ迎えに来ない」と怒っていたという話を思い出しました。そして、笑顔でVサインの義母の写真を改めて見て、声をかけたくなりました。おかあさん、おとうさんと会えて良かったね、と。

今年も「青空フェス」賑やかに開催

今年も吉川区の道の駅の広場で「青空フェス」が行われました。

今回は小川エリさんの司会のもと、川合徹人さんとかわいい仲間、ピアス、ラフベリーが歌い、上杉おもてなし武将隊、よさこい、鼓舞衆（こぶし）、吉川踊り隊が盛り上げました。

今回初参加の川合徹人さんは平和記念式典が行われた広島、長崎へ車で行き、帰って来たばかりのさだま

さしの「キーウから遠く離れて」などを披露しました。このところ、地元で活発に音楽活動を行っているピアス（イラスト）のみなさんも「キッスは目にして」など曲を歌いました。ラフベリーのみなさんは今年もパワフルな歌で観客を魅了しました。聴衆の中には歌に合わせて踊ります人もいました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月3日(水)	8月17日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.053

大島区熊田で花火打ち上げ

13日、大島区熊田へ行き、恒例となった花火を観てきました。

14戸の小さな集落ですが、地域を元気にしようと、「いよんぎと心機一転の一発」「世界平和のために」「町内全員元気で」などの思いを込めて、10分間に54発の花火を上げ、夜空に大輪の花を咲かせました。直前まで大雨だったのですが、午後7時半の開始時間には小雨になりました。これで、豊作と健康はホシウされることでしょう。



春よ来い

第七二〇回 義母のVサイン

義母は今年も笑顔で迎えてくれました。ただし、自分の部屋ではなく、今回は仏壇の脇の写真の中からでした。

今年のお盆は義母が亡くなって最初に迎えた新盆です。お寺さんがお参りに来てくださるといので、一五日、妻と共に柏崎市にある妻の実家に行ってきました。

この日は雨が降ったり止んだりの天気、一日中、蒸し暑い日となりました。

家の玄関に至る道は市道から一五メートルほどの距離です。ずっと坂道で、道の中ほどのところの左右に大きな百日紅(さるすべり)の木があります。雨にぬれたのでしょね、左側の白い花も右側の赤い花もキラキラと輝いて見えました。

家に入ったのは午前10時を少しまわった頃です。まずはお参りをと仏壇に向かいました。仏壇の一步手前で、すぐ左側に義母の遺影と共にひと回り小さな写真があることに気づきました。これがとても素敵でした。笑顔いっぱい、しかもVサインをしています。私の顔を見上げて、「おっ、橋爪さんも来てくれたね」そんな言葉が聞こえてきそうな写真でした。

写真をよく見ると、介護施設のスタッフの方から撮ってもらったものなので、立派な木製のイスに腰掛けて、足元には毛布をかけてもらっています。撮影の日付は2020年4月5日となっています。付は、まだ寒かったのでしょうか。

お寺さんを待つ間、私は庭が見渡せる廊下のイスに座ってゆっくりさせてもらいました。庭には百日紅の木だけでなく、桜や紅葉の木などが植えられています。庭のほぼ真ん中にある桜の木の上部が枯れ始めている様子が見えました。

義兄に、「桜の木、上の方、枯れちゃったね」と言うと、「たぶん栄養不足になっているんじゃないかな。足も踏まれちゃっているしね」という言葉が返ってきました。

た。「足が踏まれている」というのは、木のそばに大きな石が置いてあるということ。これは気づいていませんでした。

桜の木は義兄の長女のNちゃんが誕生したことを記念して植えたものです。だから、樹齢は少なくとも四七年になっています。義兄によると、苗木は三メートルの長さになっていたといいますが、実際の樹齢はそれよりも二、三年長いはず。

妻はというと、座敷に置いてある家系図に見入っていました。「父ちゃんの母親は、大正十四年五月十一日、三六歳で亡くなったんだね。父ちゃんがまだ二歳だったんだ」。前にも聞いたことがあるような気がするのですが、この言葉が心に響き、私も家系図を改めて見てみました。義母の母親だけでなく、何人もの人が三十年代、四十年代で亡くなっていることを知りました。

それだけではありません。妻が「火事にあっているんだ」と言ったので、家系図のなかの一角に書いてある重大な事件にも注目しました。「明治三十一年五月十七日、放火で当主家とも三戸が全焼。家屋の再建と、後に長男嫁子娘孫に先立たれ、妻と共に心労されたことと思う」。この記述は義父が書いたと思われるが、こうしたこと書かれていることは初めて知りました。

新盆というのは、この一年の間に亡くなった人のことを思い、さらにそれよりも前に亡くなった人たちのことにも思いを寄せることになるんですね。

再び外を見ると、いつの間にか日が照っていて、アブラゼミとツクツクボウシが賑やかに鳴いています。

家系図を見たことで、義母が生前、「父ちゃんがまだ迎えに来ない」と怒っていたという話を思い出しました。そして、笑顔でVサインの義母の写真を改めて見て、声をかけたくなりました。おかあさん、おとうさんと会えて良かったね、と。

今年も「青空フェス」賑やかに開催

今年も吉川区の道の駅の広場で「青空フェス」が行われました。

今回は小川エリさんの司会のもと、川合徹人さんとかわいい仲間、ピアス、ラフベリーが歌い、上杉おもてなし武将隊、よさこい、鼓舞衆(こぶし)、吉川踊り隊が盛り上げました。

今回初参加の川合徹人さんは平和記念式典が行われた広島、長崎へ車で行き、帰って来たばかりの平和への強い思いを語りながら、さだまさしの「キーウから遠く離れて」などを披露しました。このところ、地元で活発に音楽活動を行っているピアス(イラスト)のみなさんも「キッスは目にして」などち曲を歌いました。ラフベリーのみなさんは今年もパワフルな歌で観客を魅了しました。



聴衆の中には歌に合わせて踊りだす人もいました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月3日(水)	8月17日(水)
上越南消防署	0.057	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.053